

総合的な学習の時間学習指導案

三次市立三次小学校

大内和子

- 1 日時 令和7年6月6日（金） 第5校時
2 学年 第6学年
3 場所 6年生教室
4 単元名 「つながる！三次・夢・未来！」～ 地域の役に立ち隊員ジャー ～
5 単元について

(1) 単元観

本校は、三次盆地のやや中心に位置する。三次町は江戸時代に進められた街づくりがそのまま残っており2年生の生活科や、3年生の社会科では、まちの文化・産業・歴史とたくさん関わり、街の魅力を味わうことができる。また、三本の大きな川に囲まれており、自然環境に恵まれている。しかし、その川が時として水害を引き起こす不安がある。4年生の社会科と5年生の総合的な学習の時間では、川と共に生きてきた先人たちの知恵と努力、防災について学ぶことができる学区である。地域の方々は学校に対して協力的で、教育活動に大変力を貸して下さっている。また、学校のすぐ前には、地域の方が自由に利用できる「ふれあい会館」（自治会館）があり、様々な地域のイベントに参加したり、イベントを開いたりすることも可能である。

本単元では、地域の伝統的な文化・産業・観光・歴史的建造物・福祉等に係る人に、再度インタビューをする活動を通して、守っていききたい思いや、願い、生き方に触れ、地域のために貢献したり、未来に引き継ぐことについて考えたりする。そして、つなごうとする人たちがいなければ、地域の伝統的な文化・産業・観光・歴史的建造物・福祉等、未来に残せないことを実感し、自分が地域と関わる大切な一員であることを自覚することで、地域に対する愛着をもたせる。

最終的には、児童自ら地域の中で自分たちができるボランティア活動や、行事等を探して活動しようとする態度を育てる。

(2) 児童観

本学級の児童は、とても元気で活動的である。色々な場面で自分たちの思いをもって活動することができ、それが様々な学習場面で主体的に学習する力にもつながっている。一方で、生活面では、うまく折り合いがつけられず友達とぶつかる原因にもなっている。「みんなで団結して一つのことを成し遂げたい。」という思いをそれぞれが強くもっているが、なかなか最後までやり切れていないのが現状である。

児童はこれまで様々な学習場面で、地域の方に協力していただきながら、自分たちが興味を持ったことを調べたり、体験したりしてきた。様々な体験活動の中で、自分を肯定的に捉えられるようになった児童が多い。現在卒業を前に、恩返しと感謝の気持ちをこめて「地域の役に立って卒業したい。」という思いを強くもって活動を始動させている。

5月に実施した総合質問紙調査の結果、みよし学園で育成したい資質・能力に関して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

みよし学園で育成したい資質・能力に関して行ったアンケートの結果

資質・能力	項目	よくあてはまる	やや当てはまる
コミュニケーション能力	友達と話し合う時、自分の考えを言葉で伝えることができているか。	90.3%	9.7%
協調性	一人で解決が難しい問題を解決するために、友達と協力していますか。	100%	0%
主体性	自分で決めたことは、最後まであきらめずに取り組んでいますか。	67.6%	32.3%

総合質問紙調査（5月）の結果

項目	よくあてはまる	やや当てはまる
あなたは、物事を行うとき、次に何をすべきか自分なりに判断して行動していますか。	90.3%	9.7%
クラス全体やグループ、友達同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発信していますか。	71.0%	29.0%
クラスの話し合いや友達との間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて、授業していますか。	96.8%	3.2%
あなたは、学校生活の中で他の人が発信したり、発表したりするときに、質問していますか。	80.6%	16.1%
あなたは、学校生活の中で発信するとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発信していますか。	83.9%	12.9%

これらの結果から、自己肯定感が高く、課題解決に向けて、多様な意見を出し合いながら議論を行い、協働的に合意形成を図ろうとしている児童が多いことが分かる。しかし、主体的に課題を設定し、根拠を明確に論理的に自分の考えを伝えることができる児童の割合は低い。また、自分の意見の根拠を述べるためにどのような資料を用意してプレゼンを行えばいいのか、主体的に考えられる児童の割合も低い。

（3）指導観

主体的に課題を設定し、根拠を明確に論理的に自分の考えを伝えることができる児童の育成を目指し、課題設定の場面では、地域の現状についてコミュニティスクール（以下CS）の方の熱い思いを聞くことで、一人一人の児童が地域の活性化に向けて自分たちも協力したいという気持ちをもたせ、「どのように地域の役に立ち隊員ジャー」を課題に設定する。三次町ならではの「めだま」を大切に様々な活動を仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。ステップ2では、課題に対して自分たちができることを考えさせ、その後、自分たちの思いだけで実施できるのかどうかを考えていく。ステップ3では、自分から課題に対して自分たちの力だけでは「成功」させることは難しいという困り感から、地域の方々と協働したいという思いをもたせ、積極的に活動できる内容を設定させる。ピンチが生じた時に、諦めて終わりにならないように、必要に応じて地域の方や家族に協力を依頼させる。そのため、CSの方には、担任から単元のねらいや目標が分かるように事前に説明しておく。

情報収集の場面では、目的に応じた多様な方法で必要な情報を取り出したり収集したりさせる。今まで体験したり、学んできたことを振り返り、さらに新たな情報を選び収集させる。

整理分析の場面では、収集した情報を整理したり分析したりして思考する場面を位置付ける。場面に応じて考えを操作化、可視化する思考ツールの活用を検討させる。プレゼンテーションの内容に応じて、子ども自身が情報を吟味する時間の設定時間を保証する。その際、どのような方法で情報の整理分析を行うのかグループごとに考え決定させる。プレゼンテーション後、クラスやCSの方に総合評価をしてもらったり、活動途中や活動後に、KPT（Keep・Problem・Try）の視点で振り返りを行ったりすることを通して、整理分析することが、自分が伝えたいことの根拠になることに気付かせる。また、プレゼンテーションや整理分析を繰り返し行うことが活動内容を成功に導いてくれることに気付かせる。

まとめや表現の場面では、気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、表現させる。その際、相手意識や目的意識を明確にさせ、相手に伝えるための効果的な方法を考えさせる（各教科等の表現方法を活用）。そして、その活動が、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながることに気付かせる。さらに、外部への発信と評価により、子どもたちに達成感を味わわせる。

6 単元の目標

地域の伝統的な文化・産業・観光・歴史的建造物・福祉等に係る人に、再度インタビューをする活動を通して、守っていききたい思いや、願い、生き方に触れ、地域のために貢献したり、未来に引き継ぐことについて考えたりする。

そして、つなごうとする人たちがいなければ、地域の伝統的な文化・産業・観光・歴史的建造物・福祉等、未来に残せないことを実感し、自分が地域と関わる大切な一員であることを自覚することで、地域に対する愛着をもつ。

7 指導計画（別紙）

8 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の伝統的な文化・産業・観光・歴史的建造物・福祉等は、守ってきた人の工夫や努力があることを理解している。</p> <p>②自ら提案する活動において、乗り越えなければならないいくつかの条件を知るとともに、乗り越えてきた人々の願いや、生き方、結果を出すプロセスについて理解している。</p> <p>③書籍やインターネット、取材、アンケート調査を通して得た情報を集約して活用する方法を理解し、活用している。</p> <p>④今の自分たちにできることを考える活動を通して、自分自身が様々な組織や人とのつながりの中にあり、社会を形成する一員であることに気付いている。</p>	<p>①地域の人々の思いを念頭に自分たちにできることを考、課題を設定し、解決に向けて計画を立てたり、計画を調整したりしている。</p> <p>②課題解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりしながら整理・分析し、解決に向けて具体的に考えている。 本時【コミュニケーション能力】</p> <p>③伝える相手や目的に応じて適切な方法を選択して効果的に表現したり、提案したりしている。</p>	<p>①地域の現状や将来、地域の人々の思いを基に自分たちにできることを考え、よりよい活動にしようとしている。【主体性】</p> <p>②課題解決に向けて、根拠や理由を明確に、多様な意見を出し合いながら議論を行い、協働的に合意形成を図ろうとしている。 【コミュニケーション能力】</p> <p>③地域の人と交流したり関わったりすることで、他者理解を深め、自分自身も三次町の一員として、よりよい町にしていこうとしている。 【コミュニケーション能力】</p> <p>④相手やゴールを意識して関わるとともに、多様で異なる考えを受け入れながら積極的に話し合ったり、活動状況を振り返ったりして、友達と協働的に課題を解決している。【協調性】</p>

9 本時の展開

(1) 本時の目標

地域の役に立つためのイベントの実現に向けて、三つの視点「実現可能か」「意味があるか」「有効か」とプレゼンの内容を結び付けてイベントの内容を分析することができる。

(2) 本時の評価規準

地域の役に立つイベントなのか、三つの視点をもとに根拠や理由を明確にして話し合い、分析することができる。[思考力・判断力・表現力②]

(3つの資質・能力について)

イベントの内容を分析するために必要な情報を取捨選択し、三つの視点「実現可能か」「意味があるか」「有効か」を結び付けて解決に向けた自分の考えを持ち、適切な方法で表現している。(コミュニケーション能力)

【ルーブリック】

A	根拠や理由を明確にして論理的に自分の考えを伝え、話し合いを通してイベントを分析することができる。
B	根拠や理由を相手に伝え、話し合いを通してイベントを分析することができる。
C	話し合いを通して、イベントを分析することができる。

(3) 準備物 ワークシート, タブレット端末, 振り返りカード

(4) 本時の展開

	主な学習活動・内容	○指導上の留意点☆【評価規準】・(評価方法) ※他教科とのつながり
導入	1 本時の流れを確認する。(学習計画の流れ) 2 本時のめあてを確認する。	○本時の流れを示す。
	本時のめあて プロジェクトの実行に向けて, 三つの視点をどのように生かした分析をする?	
展開	3 グループのプレゼンをもとに, 地域の役に立つイベントを分析する。 ①第一回目のプレゼンを聞く。 ・から麺チップの製品化 ・三次トランプづくり ②三つの視点をもとに実現可能かどうかグループごとに分析する。 ・グループトーク ・クラストーク 4 イベントの設定 5 本時のまとめをする。	○整理しながら発表を聞くために, PMIシート等ツールを使わせる。 ○前時まで三つの視点をもとに整理した分析表を意識させる。 ○三つの視点をもとに地域の方の願いや思いを考慮することが大切であることを伝える。 ○イベントの設定に向けて, 三つの視点をもとに討論させることにより, 納得できる分析結果をもたせる。 ☆【思・判・表】地域の役に立つイベントなのか, 三つの視点をもとに根拠や理由を明確にして話し合い, 分析することができる。(行動観察・ワークシート) <支援を要する児童への手だて>話し合いの内容に迷っている児童には, 声を掛ける。 ※国語科, 「情報と情報をつなげて伝えるとき」を並行して学習。(集めて整理して伝えよう 構成を考えて, 提案する文章を書こう。伝えにくいことを伝えよう。)
	本時のまとめ 地域の方の願いや思いをもとに考えて分析した。	
まとめ	6 振り返りをする。	
	【振り返りに表記させたい資質・能力に関する記述】 ①三つの視点を意識して, 自分が考えているイベントを説明することができた。 ②三つの視点を意識してプレゼンを聞き, 話し合いを通してイベントを分析することができた。 ③イベントの決定に向けて, 今日出された改善点を直して, もう一度プレゼンをさせて欲しい。	
	7 次時の予定確認 ・三つの視点をもとに他のグループのイベントの決定をする。 ・設定したイベントが実現可能か確認するための準備をする。(ゲストティーチャーに確認)	○次回の授業で自分たちが何をするのかを明確にして臨めるようにする。 ○今後の活動について考えた振り返りができるようにする。